

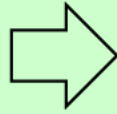
青ねぎの規模拡大・専作化による生産力・ブランド力向上の取組 ～株式会社 夢～

経営体の概要

平成15年

基幹作物及び経営面積

：青ねぎ1ha、米1ha



現在：平成28年

基幹作物：青ねぎ

経営面積：10ha



取組の経緯と経営転換のポイント等

社長の奥野氏は、平成14年に就農。当初は家族経営であったが、規模拡大や生産力向上を図るため、平成20年に株式会社 夢を設立した。平成27年から青ねぎ専作に移行し、青ねぎの単収増や高品質化に取り組んでいる。

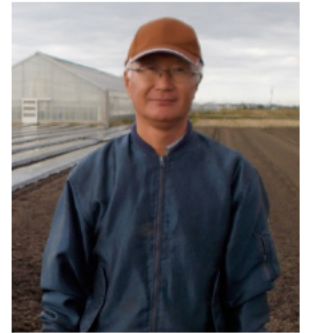
調整池の整備やパイプライン化により、通水日の制約がなくなり、秋冬期も用水が確保できたことから、計画的な播種と周年栽培が可能となった。また、JA伊勢青ねぎパッケージセンター稼働(平成22年)により、袋詰め作業が無くなったこと等が、規模拡大が図れた要因の一つとなっている。

営農改善のポイント

①作物の変化、規模拡大

平成14年に、自作地1haに水稲を、借地1haに青ねぎを作付し経営開始した後、徐々に借地を増やし青ねぎの作付拡大を進めるとともに、JAのパッケージセンター稼働により、余剰となった労働力を活用し、規模拡大・高品質化を図った。

また、水稲と青ねぎの作業が重複する時期があり、青ねぎの規模拡大の支障となっていたため、平成27年に青ねぎ専作に移行した。



奥野社長

②省力化の取組、ブランド化の取組

奥野氏は、JA伊勢青ねぎ部会副会長として、JA伊勢の青ねぎブランド化や、新規就農者への支援等、産地の発展に貢献されている。

青ねぎは、三重県内・中京市場向けは「ねぎらいねぎ」、関西市場向けは「いせっこねぎ」のブランド名で出荷されている。



マルチング作業

③単収向上・品質向上の取組

生育期間の短い夏期は株間を拡げ、長い冬期は株間を狭めた栽培を行い、単収向上を図っている。

技術的には2.5作/年の作付が可能であるが、連作障害回避のため1~1.5作/年の作付とし、地力維持のため、乾燥牛糞、鶏糞、ソルゴーをほ場に投入している。

ねぎらいねぎ



事業概要

(平成28年度調査時点)

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：三重県伊勢市、多気町、明和町、大台町、玉城町

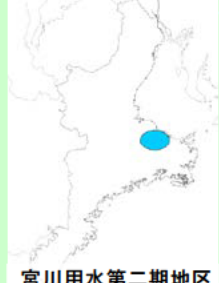
受益面積：4,681ha、事業期間：平成7年～平成24年

事業目的：用水改良、畑地かんがい

主要工事：調整池1ヶ所、頭首工1ヶ所、導水路(改修)

15.4km、幹線用水路等23.8km、水管理施設

位置図(三重県)



宮川用水第二期地区

<問い合わせ先> 東海農政局農村振興部農村環境課営農指導係
電話：052-223-4631